

補助金・交付金 チェックシート (No.1)

補助金名 (交付金名)	函館市医師会看護・リハビリテーション学院運営費補助金	開始 年 度	令和2年度
団 体 名	公益社団法人 函館市医師会	団体等 の状況	☒ 課税事業者 ☐ 免税事業者
助成の根拠規定等 (条例・規則・要綱等)	・函館市補助金等交付規則 ・函館市医師会看護・リハビリテーション学院運営費補助金交付要綱		

○補助事業の内容および目的・効果

内 容	作業療法士および理学療法士の養成に係る経費補助
目 的	(目 的) 道南唯一の作業療法士および理学療法士養成校として本市における作業療法士および理学療法士の育成ならびに安定的供給を図る。
・ 効 果	(効 果) ・道南地域の高校生の進路拡大および、若年人口の減少抑制。 ・医療人材の確保や医療と介護の連携強化など、医療等サービス提供体制の強化。

○補助事業の収支状況 ※上段:補助事業等に要する経費 [下段]:補助対象経費 (単位:千円)

	年 度	助 成 金		会費等	繰越金	その他		計
		市	その他					
収 入	R4 (決算)	4,700 [4,700]		348,991 [198,677]		2,290 [2,290]		355,981 [205,667]
	R5 (決算)	4,700 [4,700]		334,068 [203,221]		2,269 [2,269]		341,037 [210,190]
	R6 (決算)	4,700 [4,700]		306,511 [181,260]		2,338 [2,338]		313,549 [188,298]
	R7 (決算)	4,700 [4,700]		280,680 [193,383]		1,570 [1,570]		286,950 [199,653]
	R8 (予算)	4,700 [4,700]		257,767 [173,366]		1,298 [1,298]		263,765 [179,364]
支 出	年 度	人件費	事務費	事業費	上部団体 負担金等			計
	R4 (決算)	130,866 [130,866]	22,453 [22,249]	202,662 [52,552]				355,981 [205,667]
	R5 (決算)	132,139 [132,139]	24,842 [24,625]	184,056 [53,426]				341,037 [210,190]
	R6 (決算)	119,636 [119,636]	23,133 [22,915]	170,780 [45,747]				313,549 [188,298]
	R7 (決算)	127,738 [127,738]	24,845 [24,629]	134,367 [47,286]				286,950 [199,653]
	R8 (予算)	114,212 [114,212]	23,328 [23,124]	126,225 [42,028]				263,765 [179,364]

補助金・交付金 チェックシート (No.2)

補助金名 (交付金名)	函館市医師会看護・リハビリテーション学院運営費補助金
----------------	----------------------------

○基本的視点の再チェック

基 本 的 視 点		適	不適	説 明
1	公益性 (明確な公益性があるか) ①広く市民生活の向上に貢献 する事業 ②市民ニーズが高い事業	☒ ☒ ☒	☐ ☐ ☐	当該補助金は、道南で唯一、作業療法士および理学療法士の養成学科を有する養成校への運営費補助であり、道南の高校生の新たな進学先の確保および若者の市外への流出の抑制に貢献しているほか、医療人材の確保や医療と介護の連携強化など、医療等サービス提供体制の強化に貢献できる。
2	必要性(補助しなければならない事業であるか)	☒	☐	道南地域で作業療法学科および理学療法学科を有するのは同校のみであり、道南地域の高校生の進路の一つとして重要な役割を果たしており、同校の教育内容を充実させることは、他都市への医療人材の流出抑制に必要である。
3	自主性(自主自立に向け努力しているか)	☒	☐	光熱費や事務費等運営経費の節減に努める。
4	有効性(他の手法ではなく補助することが、施策目的実現に最適か)	☒	☐	「学校運営費」という性質を考えた場合、委託や負担金ではなく、補助によることが適切であるといえる。

○財政的視点のチェック

財 政 的 視 点		不適	不適の場合の理由と今後の対応について
1	積算内訳は、前年踏襲となっていないか	☐	
2	補助金等の使途は適切である	☐	
3	積算基準は定められている	☐	
4	補助割合は、補助対象経費の1/2以内である	☐	
5	前年度繰越金は生じていないか	☐	
6	自主財源の確保に努めている (最低でも前年度の収入を確保しているか)	☐	
7	経常経費の節減に努めているか	☐	

補助金・交付金チェックシート(No.3)

補助金名 (交付金名)	函館市医師会看護・リハビリテーション学院運営費補助金
----------------	----------------------------

○補助効果の検証

(効果測定方法, 具体的な数値等)	
① 入学者数実績 ② 市内における理学療法士, 作業療法士としての就職状況	
(達成状況)	
① 【令和4年度実績】 作業療法学科: 40名, 理学療法学科: 40名 (定員各40名) 【令和5年度実績】 作業療法学科: 40名, 理学療法学科: 40名 (定員各40名) 【令和6年度実績】 作業療法学科: 28名, 理学療法学科: 40名 (定員各40名) 【令和7年度実績】 作業療法学科: 22名, 理学療法学科: 29名 (定員各40名)	
② 【令和6年度卒業生】 作業療法学科: 58.8%, 理学療法士学科: 58.3%	



(評価)	(理由)
十分効果をあげている ☒ 一定の効果をあげている ☐ 効果が疑問である ☐ その他 ☐	人口減少や若者の市外への流出という問題が深刻化しているなかで, 同校の存在は, 市内における新たな進学先の創出, さらには人口流出の抑制に貢献していると考えられる。また, 同校卒業生が市内近郊の医療機関に就職することで, 本市における作業療法士および理学療法士の安定的な供給に繋がる。

○今後の方向性

☒ 現行のまま補助を継続 ☐ 見直したうえで補助を継続 ☐ 廃止 ☐ その他	(見直しの内容※現行のまま継続の場合もその理由を記載) 本補助金は道南で唯一の理学療法士・作業療法士養成校に対し, 令和2年度から交付を開始し, 同校の教育内容の充実に寄与してきた。当該リハビリテーション職の育成および安定的供給ならびに若者の市外流出の抑制を図るため, 同校への補助は現行のまま継続する。 (見直しの時期)
(廃止の理由) (廃止の時期)	(その他の内容)

○終期の設定

終期設定	☐ 終期到来により廃止 ☒ 終期到来時に再検討	次回チェック年度(予定)
令和 10 年度		令和 10 年度